

## 家畜伝染病等の廃棄基準の考え方

### 1 ヒトへの感染性が確認されている疾病

#### 廃棄基準案：とさつ・解体禁止、全部廃棄

水胞性口炎、リフトバレー熱、アフリカ馬疫、牛丘疹性口炎、類鼻疽、牛カンピロバクター症、ニパウイルス感染症、馬インフルエンザ、馬モルビリウイルス肺炎、野兎病、馬パラチフス、伝染性膿疱性皮膚炎、流行性羊流産、疥癬、萎縮性鼻炎、ブルセラ病、結核病、ヨーネ病

### 2 ヒトへの感染性が否定されている疾病

#### 廃棄基準案：病変部位の廃棄

なし

### 3 ヒトへの感染性が不明な疾病

#### 廃棄基準案：とさつ・解体禁止、全部廃棄

ブルータング、アカバネ病、悪性カタル熱、チュウザン病、ランピースキン病、牛ウイルス性下痢・粘膜病、牛伝染性鼻氣管炎、アイノウイルス感染症、イバラキ病、牛流行熱、トリコモナス病、ネオスポラ症、牛バエ幼虫症、馬ウイルス性動脈炎、馬鼻肺炎、馬伝染性子宮炎、小反芻獸疫、ナイロビ羊病、マエディ・ビスナ、伝染性無乳症、山羊関節炎・脳脊髄炎、山羊伝染性胸膜肺炎、オーエスキ一病、伝染性胃腸炎、豚エンテロウイルス性脳脊髄炎、豚繁殖・呼吸障害症候群、豚水疱疹、豚流行性下痢、豚赤痢、鳥インフルエンザ、伝染性ファブリキウス囊病、鶏マイコプラズマ病、ロイコチトゾーン病、あひる肝炎、あひるウイルス性腸炎、馬伝染性貧血、鶏痘、伝染性気管支炎、伝染性喉頭気管炎

### 4 異常

#### 廃棄基準案：異常部分の廃棄

臓器の異常な形、大きさ、硬さ、色又はにおい

潤滑油又は炎性産物等による汚染

【注1】 下線部は、現行のと畜場法及び食鳥検査法により部分廃棄としている疾病。

【注2】 水胞性口炎、リフトバレー熱、アフリカ馬疫、ニパウイルス感染症、馬モルビリウイルス肺炎については、とさつ・解体禁止、全部廃棄措置とするよう農林水産省より意見を聴取している。

平成15年度厚生労働科学研究事業報告  
「食品を介する家畜・家禽疾病のヒトへの  
リスク評価およびリスク管理に関する研究」

主任研究者 国立感染症研究所獣医学部長 山田 章雄  
分担研究者 岩手大農学部獣医学科長 品川 邦汎  
動物衛生研究所安全性研究部ズーノージス研究室長 中澤 宗生  
国立医薬品食品衛生研究所安全情報第二室長 春日 文子



家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	発生状況	体内分布	ヒトの疾患	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
○ 結核病	牛 山羊 水牛 <small>しか</small>	<i>Mycobacterium bovis</i>	マイコバクテリアの一類である。 <i>Mycobacterium bovis</i> (牛型結核菌)の感染により、主として肺、リンパ節に特徴的な変形を示す慢性的な疾患有ある。本病は、シベルクリン反応の応用と陽性牛の淘汰によって予防が進められてきた。病的規制がない肉用牛にとり集団発生がおこり、本病は人畜共通伝染病として公衆衛生上重要な病気である。	畜産結核牛では咳嗽、食慾不振、体温下などはM. aviumの感染で乳産牛では一般的な感染が少く、少數例のM. tuberculosisの感染では、成年牛が増加して病理性の変化を示さない。病理的には結核菌の有無によって、RunyonのⅢ群菌とⅣ群菌とに分離される。このような傾向には、胸腔牛からの菌分離が最も多く、他の部位では結核病変の多発部を用いてリセリン注入法を用いる。	ヒトでは肺結核のほか小児は經口感染、男の頸部リンパ節結核、骨および関節の感染症、骨膜炎および關節炎などがあり、オーストラリアにおいては食肉加工処理場労働者37名、家畜関係労働者22名、TBを取扱う研究者3名等報告してい る。また、3名が感染した。症状は不明、感染源は未定。	ヒトへの感染経路は不明、感染源は未定。	TB感染者、生乳、その他不明。	Int J Tuber Lung Dis (1999) 3:715-721	
○ ヨーネ病	牛 めん牛 山羊 水牛 <small>しか</small>	<i>Mycobacterium avium</i> subsp <i>paratuberculosis</i>	ヨーネ菌(Mycobacterium paratuberculosis)による牛、水牛、しか、めん牛、山羊の慢性肉芽腫性腸炎で、病畜は難治性の大半部分は養殖場で生じるが、生物学による生物質による胸膜が最も有効。	主要症状は1～2週間を周期とする間歇性下痢と急激な瘦削、泌乳停止。不顯性感染個体でも慢性的な下痢が生じる。現在ヨーネ病は主に回腸粘膜組織で発生するが、前後で移動しており、ヨコ・ツチノボリ状態で厚い粘膜は数倍に肥厚し、板状に隆起する。粘膜はみられない。	ヨーネ菌の感染部位は主に牛の東側牛乳管、牛乳を介して人の腸管粘膜組織および腸管壁に寄生する。ヨーネ菌は主に回腸、10名に回腸、14名に肉芽腫形成が見られた。	ドイツでは、HIV感染の男性1名が感染。症状は下腹、発熱、体重の減少。感染源は不明。またUKでは3名が感染。クローン病の症状(消化器組織の悪化、体重の減少、腹痛、腹痛、便の潜伏化が進んだり、便の潜伏化が進んだり)を示した。うち13名は多くの細胞内球状(消化器組織の悪化、体重の減少、腹痛、便の潜伏化)を示す。	1) Emerging Infections Diseases (2002) 8(7):729-731 2) J Clin Microbiol (2003) 41(7):2915-2923		
○ 馬伝染性貧血	馬	Equine infectious anemia virus	馬伝染性貧血ウイルスはレトロウイルス科レンチウイルス属に分類されるRNA科レンチウイルスで、エンベロープを保有している。このウイルスは馬ののみに感染する。本年度では馬を輸出死に至る感染が特徴で、高熱が持続し死亡する急型急性型の繰り返しにより死に至る。	感染馬は特徴的なウイルス分離がススメられる。本年度では感染馬の血清RNAが多數存在し、CF反応で接種してを行い、CF反応が陽性であればウイルス抗原を確認する。無熟期が最も長い長い潜伏期間の馬が感染され、馬の血清検査法の開発が進められ、PCR法によるヨーネ菌特異DNA検出による診断法も開発されている。	馬科のみが感染する。馬の血液を含む全身の組織に感染した報告は見あたらぬ。	かつては世界中で流行していたが、現在は日本ではまだ感染馬が存在する。日本では馬の血清が筋肉に分布する。各組織のウイルス量は、血清、肝臓、脾臓、腎臓、肺、脳などで調べられており、 $10^{3.5} \sim 10^6$ TCID50/0.5ml程度になる。平衡度には接觸界面以下にかかる。	1) Adv. Vet. Sci., 8: 263-298, 1963. 2) OIE manual of standards for diagnostic tests and vaccines, 4th ed., 54-55, 2000. 3) 動物の感染症、近代出版、180. 2002, 4) Natl. Inst. Anim. Health Q., 11: 11-20, 1971.		

○家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	アフリカ馬疫	概要	発生状況	診断法	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
				Retrovirus科、Orlovirus属、アフリカ馬ウイルス分離は、免疫動物不顯性の感染による急性から慢性などの乳頭状瘤病、肺腫瘍などの乳頭状瘤病を示す馬科の疾患である。馬の感染は、アフリカ大陸での事故による感染である。	本病は馬科動物の疾患本ウイルスは内臓な例として、ワクチン製エロゾール感染として、アフリカ大陸での事故による感染である。	ヒトへの感染本ウイルスは内臓な例として、ワクチン製エロゾール感染として、アフリカ大陸での事故による感染である。	対症療法			
○アフリカ馬疫	馬	African horse sickness virus (Orlovirus)		馬のなかで馬が最も感度が高く、馬の感染は、アフリカ大陸での事故による感染である。	馬のなかで馬が最も感度が高く、馬の感染は、アフリカ大陸での事故による感染である。	ヒトへの感染本ウイルスは内臓な例として、ワクチン製エロゾール感染として、アフリカ大陸での事故による感染である。	対症療法			